

「一晩中歩いてた」

特別インタビュー

インターンシップ生が訊きました！
ホームレス状態から居宅生活に移行するまで

お話を聞かせてくれた人

聞き手



関口さん（69）
缶拾いをしていた時に、夜回りで出会いました。Homedoorで提供している仕事をした後に居宅生活を始め、6ヶ月になります。



仁井田祐毅
関西学院大学

1. どうしてホームレス状態になったのですか？

関東で14歳から料理人として働いてた。昼間は割烹、夜は洋食屋。だから寝る時間もほとんどなく働いてたね。46歳くらいで大阪に来たんだけど、会社が潰れてしまった。それからは西成で缶拾いとかをして生活してた。

2. 路上生活でつらかったことは何ですか？

一晩中歩いて缶拾いで、朝に寝る生活をしてた。段ボールで囲った中に簡易ベッドを置いて寝てたけど冬は寒くてつらかった。お酒を一杯飲んでからじゃないと寒くて寝付けなかった。あと、缶拾い中に自転車にぶつけられたこともある。病院に行ったら肋骨3本折れてた。あれはつらかった。

3. Homedoorとの出会いは？

西成で野宿してた時に荷物を取られたことがあった。だからもう取られたらあかんと思って南森町の辺りに移動して来た。ほんで缶拾いしてる時に夜回りと会って、後日たまたま事務所の近くを通った時に顔を出した。それから仕事をやらせてもらって。家を構えるつもりはなかったけど、年を取ると野宿はしんどいし、職員さんにも勧められたので、家を構えることにした。事務所に顔を出した1年後には家を借りることができたかな。

4. Homedoorのことはどう思っていますか？

夜回りで会ったときは、こんな団体あったんかと思った。今ではありがたいと思ってる。職員の子は若いのによくやってるなあ、頑張ってるなあと思う。お世話になったから、自分にできることはやる。夜回りで配るお弁当を作ってるのもそう。（料理人の経験を活かし、夜回りで配るお弁当を作ってくれています！）

5. 路上生活から居宅生活に移行して何が変わりましたか？

安心して眠れるようになったことかな。荷物を取られる心配もなくなった。あと、楽しみなことができたっていうのもある。こたつに入って時代劇を見ながら刺身をあてに一杯やる。月に1, 2回の至福の時間だね。



インタビューを終えて

ホームレスの人たちは仕事をせずに昼間から寝ていると認識されることがあります。しかし背景には、夜通し缶拾いをしているため、昼間は寝ている人がいるという事実がありました。表面的な事象にとらわれず、その原因にまで意識を及ぼせることが重要だと、インタビューを通して改めて実感しました。これからも皆さんにHomedoorの活動を支えていただけると嬉しいです。

冬募金についての詳細はこちらのURLからご覧いただけます

<http://www.lp.homedoor.org/donation2018>